

令和3年度		施策評価表(令和2年度の実績評価)			記入年月日	
					令和 3 年 6 月 11 日	
施策 No.	政策名	生きがいを育む学びのまちづくり	主管課	生涯学習課	主管課長名	久見木 憲一
2-2	施策名	生涯学習・芸術文化活動の推進	関係課	学校教育課		

1. 施策の目的と成果把握

施策の対象		対象指標名		単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
市民		①桜川市人口	人	見込値	41,278	41,008	40,738	40,467	40,197	
				実績値	41,278	40,483	39,692	38,905		
				見込値						
				実績値						
				見込値						
				実績値						
施策の意図		成果指標名		単位	区分	29年度	30年度	元年度	2年度	3年度
生涯にわたって自ら学び、学びあっている。		①日頃学習活動をしている市民の割合	%	目標値	25.1	25.1	25.1	25.1	25.1	
				実績値	22.2	24.6	29.7	21.2		
		②公民館の年間利用者数	人	目標値	89,000	90,000	91,000	92,000	93,000	
				実績値	78,052	75,205	63,261	31,382		
		③図書館・室の年間利用者数	人	目標値	28,100	28,600	29,100	29,600	30,100	
				実績値	29,127	33,170	27,862	13,226		
				目標値						
				実績値						
				目標値						
				実績値						
成果指標設定の考え方		生涯にわたって自ら学んでもらう、学びあう成果指標は、①「日頃学習活動をしている市民の割合」をアンケートで調査。また、各社会教育施設の利用者数の把握。								
成果指標の把握方法と算定式等		○対象の人口は、毎年10月1日の常住人口。 ○①日頃学習活動をしている市民の割合は、市民アンケートより求める。②公民館の年間利用者数は、各公民館の利用実績の合計より求める。③図書館・室の年間利用者数は、真壁図書館・岩瀬中央公民館図書室・大和中央公民館図書室の利用者の集計より求める。								

2. 施策の成果水準とその背景・要因

1) 現状の成果水準と時系列比較(現状の水準は以前からみて成果は向上したのか、低下したのか、その要因は？)			
実績比較	☐ 成果がかなり向上した	☐ 成果がどちらかといえば向上した	☐ 成果がほとんど変わらない(横ばい状態)
	☐ 成果がどちらかといえば低下した	☒ 成果がかなり低下した	
背景・要因	日頃学習活動をしている市民の割合について、近年上昇傾向にあり令和元年度は29.7%まで上昇したが、令和2年度は21.2%と前年度比8.5ポイントと大幅に減少した。また、公民館の年間利用者数については、これまで穏やかな減少傾向であったが、令和元年度は11,944人減の63,291人と大幅に減少し、令和2年度は31,376人とさらに半減した。図書館・室の年間利用者数についても、上昇傾向にあったが、令和元年度は5,308人減の27,862人、令和2年度はそこからほぼ半減の13,226人と大きく減少している。これらはすべて新型コロナウイルスの感染拡大が大きな要因となっており、感染対策としての施設の休館、利用人数の大幅な制限、外出自粛要請などが大きく影響している。		
2) 成果目標の達成状況			
実績比較	☐ 目標値のすべてを上回った	☐ 一部の成果指標で目標値を上回った	☐ 目標値どおりの成果であった
	☐ 一部の成果指標で目標値を下回った	☒ 目標値のすべてを下回った	
背景・要因	日頃学習活動をしている市民の割合について、目標値25.1%に対して3.9ポイント下回った。 ②公民館の年間利用者数については、92,000人の目標値に対し、31,376人であり、目標値を大幅に下回った。 ③図書館・室の年間利用者数についても、29,600人の目標値に対し、13,226人と大幅に下回った。 今回、すべての目標値を大幅に下回っているが、これらの要因についても前述した新型コロナウイルスの感染拡大が大きく影響している。		

3. 施策の成果実績に対しての総括と今後の課題・方針

施策の成果実績に対しての総括	今後の課題・方針
生涯学習・芸術文化活動の推進事業において、貢献度の高かった事業は下記のとおりである。 ・電子図書館システム運用事業・・・コロナ禍における外出自粛状況下において、思うように外出できない市民のストレスの緩和、子どもが本に親しむ機会の確保、家庭内学習の支援等を目的とし、24時間提供可能な非来館型図書館として、新たに電子図書館システムを整備し、運用を開始した。 ・桜川市市民文化祭・・・実行委員会を中心とした市民すべての方が参加資格を有し、日頃の生涯学習活動・文化振興活動の成果を発表する場として、コロナ禍において中止となった催事もあるが、感染対策を徹底した上で、できうる限りの催事を開催した。 ・高齢者学級事業・・・コロナ禍において、例年より規模が縮小となり、1講座のみの開催となったが、徹底した感染対策を行ったうえで、4会場で5回実施し、延べ73名の高齢者が参加した。 ・ブックスタート事業・・・令和2年度はコロナ禍の影響により読み聞かせ等はできなかったが、4カ月～6カ月幼児に対し、絵本をプレゼントし図書に親しむ機会の充実を図った。	桜川市市民文化祭や公民館各種講座、また文化協会などの各種団体等についても、参加者を広く公募しているが、参加者の高齢化、固定化が進んでいる。今後、若年層の参加意欲が向上するような内容を取り入れ、若い世代の方にも興味関心のある事業を推進するなどの工夫、改善が必要である。 ブックスタート事業、公民館読み聞かせ事業については、少子化に伴い大切な事業であるため、今後も引き続き継続していきたい。 各施設の管理運営に関しては、昨年度桜川市公共施設個別施設計画が策定されたことから、それをもとに対応を進めていく。 昨年度、コロナ対策として生涯学習機会の確保及び文化芸術の創造発信事業として、撮影機材、映像配信機材等を整備したので、今後は映像配信や自宅などからリモート参加できる講座、催事等の充実を図っていく。